

デジタルアーカイブを世界中にリンクする

ー「和田家おうらい」オープンデータ化による利用拡大ー

井上 透 (岐阜女子大学)

岐阜女子大学は2018年4月、日本語と英語による「和田家おうらい」をデジタルアーカイブシステムADEACより提供を開始した。(図1)



図1. 「和田家おうらい」トップページ

テキストデータを横断検索することが可能である。

さらに、国立国会図書館サーチ (NDL Search) やジャパンサーチ、カルチュラル・ジャパンと連携し、国内外の膨大なデジタルアーカイブ利用者に所在情報を提供している。

1. メタデータ公開による利用拡大

ADEACシステムで公開されているメタデータ(目録データ)は、Open Archives Initiativeが定めたOAI-PMHプロトコルに変換した上で国会図書館に提供され、国立国会図書館サーチ(NDL Search)の検索対象となり、国会図書館が運営を担っているジャパンサーチ(図2)からも検索できるようになっている。



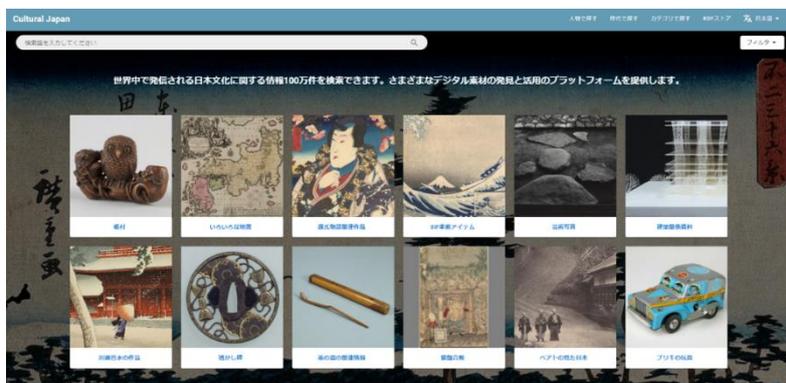
図2. ジャパンサーチ

ADEAC は、2013年3月から運用を開始したTRC-ADEAC (株) のデジタルアーカイブ提供をクラウドにより実現したプラットフォームシステムである。現在、図書館・大学等の108機関が所蔵する多様な史資料が、ADEACを通じて利用されている。ユーザーは無償で高精細画像データを閲覧できると同時に、ADEAC内のテ

また、アメリカ合衆国図書館等への情報提供サービスで知られるEBSCO社とTRC-ADEACが同様のプロトコルによるデータ提供について提携することで、2019年からADEACシステムで公開されているメタデータ(目録

データ)をEBSCO Discovery Service(以下「EDS」)上でも検索できる。

さらに、2020年8月よりカルチュラル・ジャパンが公開され、国境を越えた文化遺産の横断検索が国立情報学研究所の高野明彦氏ら5人のボランティアによる技術開発により可能になった。世界中で発信される日本文化に関する情報約100万件を検索対象となり、多様なデジタルコンテンツの発見と活用の基盤・プラットフォームになっている。ジャパンサーチ等博物館・美術館など約40の国内施設が公開しているデジタルコンテンツに加え、ヨーロピ



アーナや米国デジタル公共図書館、メトロポリタン美術館、大英博物館等の海外37カ国約550機関のデータを検索・閲覧できることとなり、「和田家おうらい」のテキストや映像はジャパンサーチを経由することによって提供範囲は拡大した。

図3. カルチュラル・ジャパン

2. ライセンス表示による2次利用拡大

デジタルアーカイブは公共財・オープンデータとしての性格を有することが求められてきた。オープンデータとは機械判読に適したデータであり、利用のライセンス表示をすることで二次利用が可能なデータであるとされている。

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスは、著作権者の許可する範囲内であれば自由にコンテンツを使用できることを証明し、作品の流通を図るための活動全般と、活動する団体（活動母体はアメリカの非営利団体）を指す。各国の著作権法に則った活動が行われており、日本はクリエイティブ・コモンズ・ジャパン⁷が日本の著作権法に準拠した規定を設けている。

「BY表示」、「NC非営利」、「ND改変禁止」、「SA継承」の4要素の組み合わせによる6種類があり、この他にパブリックドメインに関する「CC0」「PD」の2要素（種類）がある。

「和田家おうらい」は、国内外の学生のみならず多くの社会人にも広く利用されるためにクリエイティブコモンズライセンスのCC-BY（岐阜女子大学の名称を入れることを条件に自由利用を認めている）によりオープンデータとして提供している。

3. オープンデータ化はデジタルアーカイブの必須条件

多くの労力を費やして開発したデジタルアーカイブを世界中で活用してもらうためには、オープンデータ化によりメタデータを公開し、世界中の分野横断型統合ポータルと連携し検索により所在を明らかにすることと、そのデータが2次利用可能なライセンス表示によって社会生活の多様な場面で活用を可能にすることが、知識循環型社会における社会基盤としての条件となりつつある。